

和田電器株式会社

独自技術を生かし、導光板を 応用した自社製品を開発

- 納期
相談
- 企画力
自信有
- コスト
相談
- オンリー
ワン技術
- メイドイン
ジャパン
- 試作可
小ロット
- 量産
対応



導光板照明を応用した自社製品

業務内 電子制御機器を中心に 導光板照明の応用製品も開発

主に電子制御機器の開発製造を手がける。なかでもボーイング777、787などの航空機で使われるLCD表示器の制御ユニットはシェア31%を誇る。電子製品の中枢のプリント基板半製品の部品実装を軸に、部品調達から製品組立、機能検査までを主力技術として持つ。

導光板では独自開発の導光板パターン加工機を活用し、軽薄照明や両面均一発光、自由な輝度分布を実現できる。カスタマーサービス部門もあり、他社製品も含めて産業機器の制御部分などの不具合修理も行う。



電子制御機器の実装工程設備

強み ノウハウを生かし少量多品種 などの顧客ニーズに対応

10台前後の試作から1ロット数百台程度の少量多品種に対応できる。創業50年のものづくりの実績から、ソフトとハードの両面に蓄積した技術とノウハウを加え、製品の開発、実装、組立、性能検査までを一貫して行う。和田電器をはじめ、グループ会社の興和電器(株)(門真市)、電験技研(株)(同)、(有)長崎ニューテック(長崎県佐世保市)、内山オプトテック(株)(同)で和田テクノグループを形成、従業員数は全体で60名になる。和田晃一社長は「グループが一丸となり、それぞれの得意分野を生かした

ものづくりで顧客のニーズに応えられる」と話す。

自製 高精度の面均一性や 発光効率可能な導光板製品

導光板を使った照明の応用製品を用い、自社ブランド開発に力を注ぐ。導光板は液晶テレビやノートパソコンなどに使われる線光源を均一な面光源に変える光学的加工部品で、アクリルを主材に表面堀削加工や添加物混入などで実現できる。同社はその表面加工ノウハウを持ち、高精度の面均一性や発光効率が強み。

軽薄で面均一発光技術を用いた高透光性磁器「フォトセラ」、表と裏の両面が均一に光り案内板などに使える「デュアルライトパネル」、家庭用や学習用の「水耕栽培用LED照明ユニット」などを展開する。設計から生産までを同社で行うため、機能の最適化と短納期が実現できる。

今後の展望 付加価値のある製品作りや 自社製品の拡大を目指す

独自ノウハウや技術力を製品の設計・開発へ反映させることで、顧客に高品質で低価格な提案をしていく。和田社長は「受託製品や自社開発製品、付加価値のある製品作りを目指す。社員一人一人の質を高め、よりコアな部分で顧客とのつながりを深めたい」と話す。導光板照明の応用製品では、柔らかな光が出せる点を活用し、健康医療分野や照明器具、趣味用品など多方面への製品拡充を目指す。現在売り上げに占める割合は数%だが、将来は20%程度を目指す。

COMPANY PROFILE

和田電器株式会社

大阪
26

ISO 9001
ISO 14001

当社の 歴史

昭和39年の創業以来、電子部品から始まり、産業用機器、医療機器、各種電子機器を製造してきました。表面実装機を関西で他社に先駆けて導入。時代に合わせて実装技術を上し、多種多様な電子部品や集積回路部品を手がけています。グループ会社は4社あり、長崎工場では独自開発した導光板パターン加工機を駆使し、水耕栽培用LED照明などさまざまな自社商品を展開しています。

50年のノウハウと、フットワークの軽さを生かした
開発技術力・製造力・品質力があります。

代表取締役社長 和田 晃一さん



■主な事業内容

電子制御機器、LED
導光板照明応用製品の
開発製造

■主な取引先(納入先)

パナソニック(株)、電子
部品会社、電子機器販売
商社

住 所/〒571-0034
門真市東田町
16-18

T E L / 06-6900-8008
F A X / 06-6900-8007

創 業/昭和39年1月
設 立/昭和43年7月
資本金/5,000万円
従業員/6名

<http://www.wadatechno.co.jp>